



五中だより

自分には
何ができるか

第2号(5月号)
令和8年5月18日(月)
調布市立第五中学校
校長 中谷 愛

校長先生のお話

5月11日 全校朝礼

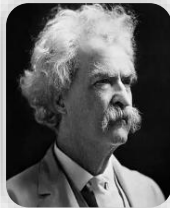
【かけがえのない命を互いに育む ～出会いを奇跡ととらえて～】

皆さんは、マーク・トウェインをご存知ですか。当時はアメリカで南北戦争があった時代。若い時は蒸気船の水先案内人として、戦争時代は兵士として活動し、その後はユーモアや社会風刺に富んだ人気の文学作家として活躍しました。『トム・ソーヤーの冒険』の著者としても世界中で知られています。そんなマーク・トウェインが残した名言です。

The best way to cheer yourself up is to try to cheer somebody else up.

Mark Twain (1835～1910)

「自分を元気づける一番良い方法は、誰か他の人を元気づけてあげることだ。」



この言葉は、他者を助けるという行為が、自分の内面的な幸福感を向上させるということを示しています。今、私たちがこれからの未来を生きていくためにも、とても大切なヒントになると思っています。

先日のことになりますが、私はこの言葉に近い思いを経験しました。家族が緊急に手術をすることとなり、これから手術という人生の大仕事に向かっていくことになった相手を、精神的に気持ちが落ち込まないように何か上手く伝えなければならぬという思いで、冷静に、具体的に励まし続けることと、サポートできることを懸命に続けることを心掛けました。手術は予定通り終わり、振り返り、今、相手に寄り添うことは自分が励まされることであったと感じています。また、かけがえのない命についてあらためて理解しました。

関連した話題となりますが、二年生が道徳の授業で取り組んでいた「最後だとわかっていたなら」という題材では、昨日まで会って一緒に何気ない会話をしていた身近な方が次の日に会えないかもしれないという可能性を想像しました。生徒の皆さんの意見を先生方から見させていただき、皆さんが、今、様々な方と一緒に過ごせることの奇跡に気づき、当たり前を幸せと感じられる境地に立っていることを知りました。生徒の皆さんの気持ちにたいへん感動しました。

全校生徒の皆さんは、ご家族や地域の方々、学校生活では先生をはじめとしたスタッフ、クラスや学年の友達、先輩、後輩など、様々な方々と様々な場面で立場を超えて交流していると思います。このことで皆さん自身の大切な命を育てています。五中生の皆さんは、きっとこういった場面を意識的に増やしながらか生活していくことが、自身の生活をさらに充実することにつながることに気づき、実践できると思います。シンプルに、いつもあいさつをすることもその第一歩ですよ。

そして、まずは今月に予定されている体育大会に向けて、仲間とどうやって協力し合っていくのかを考え、相手を元気づけるよう実践してほしいと思っています。そのことがクラスや学年の絆づくりに必ずつながっていくことと思います。

今年も、期待しています。



4月25日(土)は、調布市防災教育の日として防災についての講話を聞き、道徳の授業で生命を大切にすることについて学びました。多くの保護者の皆様に参観いただきました。11時から地震の発生を想定した避難訓練があり、その後引き取り訓練が行われました。

調布市防災教育の日



小中連携



第五中学校区の小学校と中学校の連携の充実を図る目的で、行われている取組みです。5月1日(金)には第1回目が行われ、1年生の授業参観と教員同士の顔合わせをした後、グループでの意見交流および発表を行いました。

陸上競技部

はちおうじT&Fトライアル
男子中学2年100m第1位
東京都中学校地域別陸上競技大会
男子東部2年100m第1位 男子東部共通200m第5位
男子東部共通4×100mリレー第1位
→中学校総合体育大会、および
全日本中学校通信陸上競技東京大会に出場

卓球部

第9ブロック選手権大会
男子ダブルス第2位 女子ダブルス第2位、3位、5位
北多摩南地区中学生大会
男子団体第4位 女子団体優勝 男子シングルス第3位、5位
女子シングルス第2位、4位、5位
多摩地区春季大会
男子団体第5位 女子団体優勝

五中生の活躍

体育大会の練習が始まっています。熱中症のような症状で、保健室に来る生徒さんが多くなります。毎日必ず水筒を持ってきてください。中身は、水・お茶・スポーツドリンクにしてください。また、服装も体調を考えて脱ぎ着するなど、自分で調整できるようにしましょう。



ほけんしつから

「学校いじめ対策委員会」を核とした

本校のいじめ未然防止・早期発見・早期対応について

1 いじめの定義について

「いじめとは、児童・生徒に対して、当該児童・生徒が在籍する学校に在籍する当該児童・生徒と一定の人間関係にある他の児童・生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童・生徒が心身の苦痛を感じているものをいう」

2 本校の未然防止の取組

ア 【魅力ある授業の実現】本校では「主体的・対話的で深い学び」の実現のため「学び合い・支え合い・高め合える学習集団の育成」のテーマのもと「五中授業スタイル」で授業を実践します。毎週水曜日には「お話タイム」を実施し、子ども同士の関わりの場面を意図的に設定して実施します。また、年間3回以上「道徳」において、いじめをテーマ（SNSトラブルを含む）にした授業を実施します。

イ 【生徒理解の徹底】生徒理解の方法は ①観察法 ②対話法 ③調査法があるとされています。具体的には以下の通り行います。

① 観察法 複数の教員で子ども一人一人を観察し担任ローテーション等を通じて情報共有を徹底します。

② 対話法 学期に1回以上、担任等と1対1で会話する「トーキングタイム」を実施します。

また、1年生はスクールカウンセラーによる全員面接を行います。

③ 調査法 毎月「いじめに関するアンケート」を実施します。また、連絡帳等の提出物から生徒の様子を理解します。

ウ 人権教育の徹底と「居場所づくり」「絆づくり」を基盤とした学年・学級経営

道徳科を要として人権尊重に関する授業実践と互いに認め合える人間関係を目指した学年・学級経営をします。特に「聴き合える集団」「優しい言葉の五中生」を大切に、NGワードを認めない指導をします。

エ 自治活動の充実

生徒会活動や委員会活動を通して、生徒主体で「いい雰囲気」を作るように努めています。また、「SNS 五中ルール」を策定し、SNSトラブルの未然防止の取組をします。

3 早期発見・早期対応について

毎週「学校いじめ対策委員会」を開催します。生徒の様子の情報共有とともにいじめの有無について確認します。いじめの疑いがあった際には、その都度「学校いじめ対策委員会」を臨時に開催し、組織での対応方法・指導及び支援方法・連絡方法を確認します。

ア 対応方法

「いじめの定義」に基づいた対応を徹底します。被害生徒を守ることを最優先事項として、対応方法を検討します。また、組織による事実確認を徹底します。

イ 指導方法

確認した事実に基づき指導します。複数混在している場合は、一つ一つの事実をもとに丁寧に指導、支援をしていきます。

ウ 連絡方法

確認した事実を元に迅速に保護者の方々に連絡します。また、教育委員会や調布警察署、子ども家庭支援センター（すこやか）等必要に応じて関係機関との連携を図ります。

4 教職員の意識の醸成

ア 校内研修会

いじめに関する校内研修会を年3回実施し、本校でのいじめの組織対応の在り方について研修します。

イ 管理職による定期的な面談

管理職は定期的に教職員と面談を行い、人権教育の意識の醸成を図ります。

CS 通信

4月22日(水)、第一回学校運営協議会(コミュニティカール)を開催しました。

今年度の協議会は2人の新任者を迎え、9人体制となりました。会議では始めに、中谷校長から今年度の「学校経営方針」と「経営計画」の説明があり、各委員からの意見や質疑応答の後、承認されました。

行事や研修の参観、議題に取り上げたい内容を考慮しながら、年間8回の協議会の日程を決めたあと、調布市防災教育の日や夜間照明の設置要望について話し合いました。

地域学校協働本部からは、英検や放課後学習などの企画運営を進めていくことについて報告がありました。次回は6月26日(金)開催予定です。

<令和8年度学校運営協議会委員> (敬称略)

石原昌子(会長)、白神実(副会長)、加藤実三、山本良子、大河原幸子、長田浩輝、熊谷里佳、相楽敏栄、中谷愛(本校校長)、空閑正枝(事務局)



事務室の

《第1回教材費の引落しについて》

各学年6月5日(金)に、ゆうちょ口座から教材費の引き落としがあります。前日までに登録した口座の残金をご確認ください。

□■5月の指導の重点■□

すべての生徒に居場所がある
笑顔のあふれた学校を目指す

- 1 学級での「居場所作り」を行う。
- 2 思いやりの心を育てる。
- 3 教育相談の充実を図る。

<学校住所・電話番号>

〒182-0035 調布市上石原3丁目27番地1

電話 042(484)1311

ホームページURL

<https://www.chofu-schools.jp/chofu5/>